

病院の活性化を。平成 25 年 10 月

今年の猛暑は厳しく熱中症のため救急受診される患者さんがとても多かったように思います。高知県四万十市西土佐江川崎で今までで最高の気温の 41℃が記録され話題となりましたが、一方、今まで最も暑い町であった埼玉県熊谷市、岐阜県多治見市の人々が落胆しているとの報道もありました。多くの方が昔はこんなに暑くなかったと言いますが、確かに気候は変化してきているように思います。局所的な集中豪雨も各地にみられ大きな災害となっていますし、竜巻による被害も報告されています。このような現象は日本中どの地域においても発生する可能性があり、近い将来起こると言われている南海大地震のみならず、様々な災害に対応できる病院でなければなりません。災害対応の講習会も DMAT のメンバーを中心に開催されており災害に対する職員の知識や意識も上がってきていますが、より一層、災害拠点病院として充実するよう努めていきたいと思っています。災害対策も含め病院機能を発展させていくには病院の活性化が不可欠です。先日、中国四国ブロックの講演会で済生会福岡総合病院の岡留先生から病院活性化のためにというタイトルでお話を伺いました。福岡済生会病院は病床稼働率 93%、平均在院日数 10.5 日の急性期病院で紹介率 78%、逆紹介率 87%、一日入院単価も極めて高く、非常に活力のある病院です。このような病院にするためにどのような対策をたて、取り組んできたかということについての内容でした。病院は非営利組織ですが、非営利組織とは特定の使命や目的を人々の協議を通じて達成していく持続的な組織体です。「非営利組織の大きな強みは、人々が生計のためではなく、大義のために働いているというところにある。そして、この事実が、非営利組織を維持し、仕事を単なる雑務にさせてはならないという大きな責任をもたらす。」と Drucker も述べています。また、非営利組織の役割として組織の使命を果たすこと（使命、目的の達成など）、働く人を活かす（人材育成、職員のための人事制度の構築など）、組織の継続（計画経営、経営の健全化、情報公開など）が挙げられています。まさに、これら役割は、非営利組織である高知病院が行おうとしていること、行わなければならないことを表しています。高知病院も 10 月で開院 13 周年を迎えますが、初心に戻り、大義のために働いていることを自覚したいと思います。病院の使命を明確にして実践するためには病院の活性化は避けて通れません。職員の皆さん一人一人が高知病院の職員であることを自覚しアイデアを出しあい病院活性化を進めてほしいと思っています。発展する組織とは価値観を共有する人達の集まりであると言われていました。東京オリンピック招致におけるプレゼンターの活躍がしばしば報道されました。まさに、一つのチームとして力を合わせて同じ目的に向かって進んだ結果ではないかと思います。私達も価値観を共有し同じ目的に向かい病院を活性化させ地域に信頼される病院作りをしていきましょう。